

環境共生地域学特論 II (2単位)

担当者氏名 板垣 啓四郎

◆学習・教育目標

環境共生地域学特論 II では、国際フードシステムを取り上げる。ここでは、何らかの具体的な食品・農産物を題材に取り上げて、その生産から加工・流通、消費、貿易とそのシステム全体の動的発展に関わる国内外の投資について取り上げる。国際フードシステムの全体的枠組みにおいても、環境への配慮、安全性への配慮は不可欠であり、それらの要素をどのようにフードシステム全体に取り組むかを本講義で配慮する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

国際フードシステム論 環境・資源制約下の農業 食品の加工と技術 食品流通システム
食品の安全性と認証 食品分野の海外投資 官民連携協力 バリューチェーン

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	国際フードシステム研究の課題と方法(第1～2週)	・国際フードシステム研究の課題と方法 ・国際フードシステム研究の分析手法と期待される成果	本授業のねらいは、環境と安全性に配慮した国際フードシステムの理論と分析方法を習得することにおかれている。院生自らが自己の研究課題に即してそれに応用できる理論と方法を習得することが望まれる。教員と学生、学生相互の論議を重視する。講義中の積極的な取り組み姿勢が最も重要である。
2	環境・資源と農業生産および技術(第3～5週)	・環境と資源の制約下における農業生産 ・農業生産拡大のための技術と制度	
3	食品・農産物の加工と技術(第6～7週)	・食品・農産物の加工技術と食品メーカーの機能 ・加工と流通の情報管理システムとその利用	
4	食品・農産物の流通と	・食品・農産物流通のシステムと機能および課題	
5	トレーサビリティ(第8～9週)	・フードシステムにおけるトレーサビリティ ・食品消費行動のパターンと品質保証	
6	食品・農産物の安全性基準と認証(第10～12週)	・食品・農産物の安全性基準と認証制度 ・食品・農産物の貿易とその機能	
7	食品・農産物の貿易と投資(第13～14週)	・食品・農産物分野の国内外投資 ・フードシステムとバリューチェーン	
8	総括と展望	・フードシステムに対する政策介入	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

講義の間に紹介する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

講義の間に紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

講義に対する積極的な態度と課題レポートの内容で総合評価する。

◆その他受講上の注意事項

できるだけ具体的な事例に即して講義を展開する。

